

4月の日本株展望

(作成者：奥村義弘)

○4月の日本株には上値の重さが残ろう

4月の日本株には上値の重さが残ろう。下値では日銀のETF買いや、新年度入りで機関投資家の投資意欲が増すことなどが相場を支えようが、1-3月期の決算発表に伴う企業の新年度計画にガイダンスリスクが高いこと、4月下旬からのGW10連休を前にポジションを取りにくいことなどがマイナス要因となる。4月1日には5月からの新元号「令和」が発表され、統一地方選挙、GW10連休というスケジュールからは内需関連株に関心が集まりやすい。

○相場全体を方向付ける米中通商交渉の行方

相場全体を方向付けるのが米中通商交渉の行方であろう。3月末に開催される見込みであった米中首脳会談は延期されたが、中国・米国での閣僚級会議は続いており進展期待は高い。クドロー国家経済会議（NEC）委員長は、数週間あるいは数カ月にもわたって中国と交渉を続ける用意があると述べるなど、結論は急いでいないようだ。6月のG20まで首脳会談は開催されないとの見方もある。知的財産の保護などの施行を監視するシステムや、デジタルプラットフォーム事業を巡っての折り合いが争点となっている模様。米中首脳会談が4月に開催され、米国が対中関税を撤廃すれば、ポジティブサプライズとなろう。

○世界経済の下方修正の流れに打ち止め期待が高まるかを注視

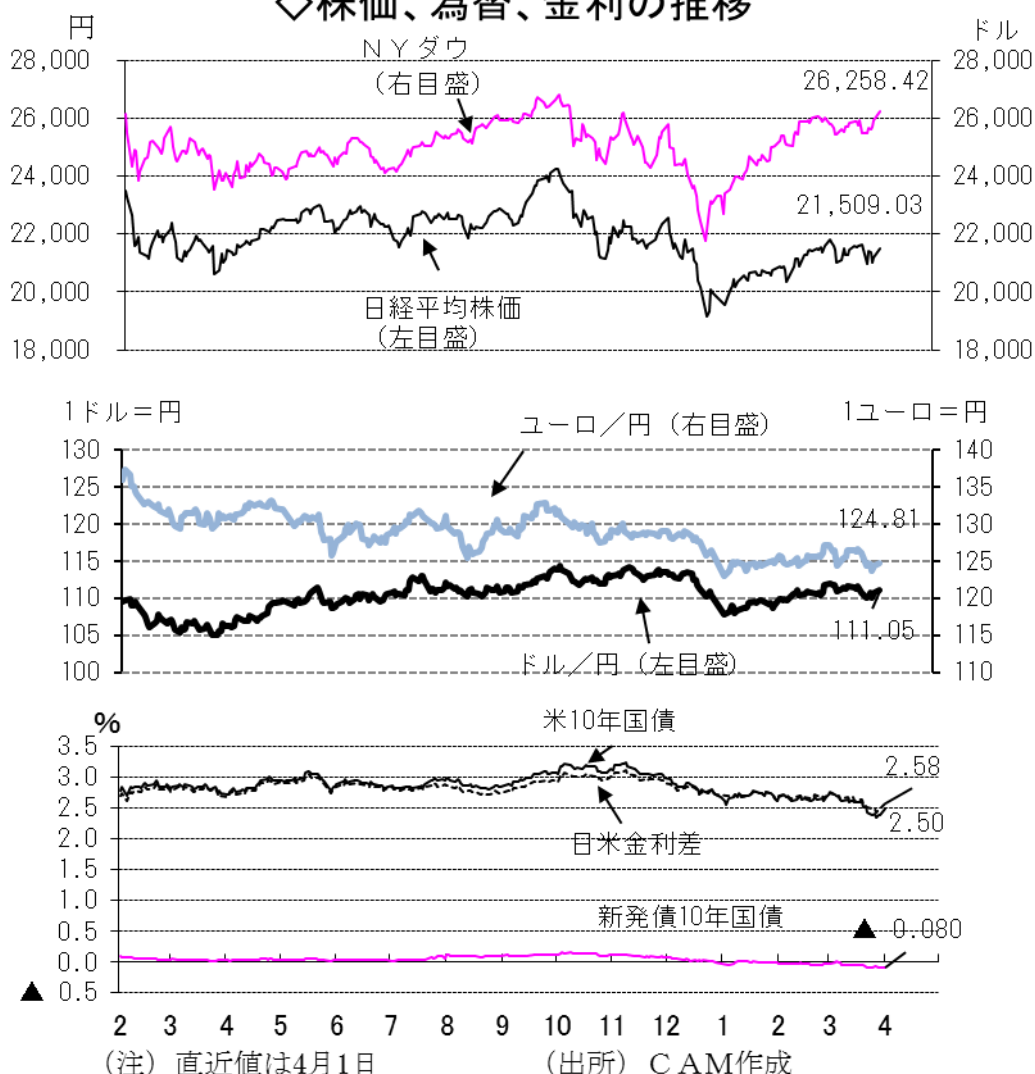
世界経済の下方修正の流れが止まるかもポイントであろう。米国では長短金利の逆転が話題となったが、FRBが緩和方向に舵を切り、低金利が経済を下支えするとの見方が強まっている。米国で1日に発表された3月のISM製造業景況感は持ち直した。雇用指標にも底堅さがあり、米景気が大崩れする可能性は低いだろう。米国の1-3月期の企業決算では、ハイテク株等の好材料を探す動きも強まろう。一方、3月の中国国家统计局発表の製造業PMIは、新規の輸出受注などには課題は残すが、持ち直しの動きがみられる。4月発表のIMF世界経済見通しでは一段の下方修正を予想するが、7月調査に向けては下方修正の打ち止め期待が高まるかを注視したい。

○国内は決算発表が一巡する5月が転換点か

国内では、4月1日に公表された3月調査の日銀短観で製造業、非製造業ともに経営者心理の悪化が鮮明になった。足元の景況は停滞気味だが、4月7日からの統一地方選挙、5月1日の改元に伴うご祝儀ムード、GWの10連休に向けたレジャー需要への期待などは、景況感改善に向けた材料となりやすい。とはいえ、4月中旬以降本格化する1-3月期の決算発表は、海外経済の不透明感の強まりなどから、厳しい会社予想に伴う失望売りへの警戒（ガイダンスリスク）も怠れない。また10月からの消費税引き上げは景気に水を差す。今年はGWが10連休と

なりポジションの取りにくさを指摘する声もある。新年度入りで、投資家の買い意欲も高まりやすい局面だが、日本株が上値を試すには、決算発表に伴う悪材料の織り込みが一巡する必要がある。4月の日経平均株価は、2万1,500円±500円程度でのみ合いを予想する。

◇株価、為替、金利の推移



お問い合わせ先 ちばぎんアセットマネジメント株式会社 調査部 電話(代表) 03-5638-1460

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第443号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-13-7

[重要開示事項]

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社(以下「CAM」)調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。